

令和7年度 学校評価表(年度末)

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない						回答数 教職員14 生徒110 保護者68 地域住民42			評価資料	到達率 [肯定評価(A,B) の割合]	アンケート結果(人数)							
重点目標		評価指標 及び目標値		期間	評価	学 校 に よ る 考 察<◇> 及 び 改 善 策 等<◆>					A	B	C	D	?			
確 かな 学 力 の 定 着 と 向 上	指導方法の改善・ 充実	分かる授業の充実に努めている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定		年度末	B	◇教職員、生徒の肯定評価は80%以上を超えているが、保護者の評価が下回ったためB評価とした。研究授業の実施も多く、教員は分かる授業に努めており、それが生徒に伝わっていることがうかがえる。生徒のA評価が中間期よりも増えており、D評価が0になり改善していると考えられるが、授業が分かりにくいと感じている生徒もいる。そのため保護者も否定的な回答となっていると思われる。 ◆継続して興味・関心を高める授業づくりとともに、振り返りや復習の充実により、基礎・基本の定着を図る。また、小テスト等により生徒の困り感を把握し、個別指導に生かす必要がある。ただ、昨年度よりも教員数が減ったため、担当教員の負担が増えていることを考慮しながら対応していく。					教職員	1	100%	5	9	0	0	
				年度末	B						生徒	1	95%	37	67	6	0	
				年度末	B						保護者	1	75%	6	45	13	4	
	ICTの活用	ICTを効果的に活用するなど、授業にICTを積極的に取り入れている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定		年度末	A	◇評価者全ての肯定評価が80%を超えているのでA評価とした。中間期と比べ、教職員は積極的に、学習ソフト(サイト)、思考ツール、宿題、アンケート等にICTを取り入れており、生徒も良い意味でICTのが当たり前になってきたのだと考えられる。 ◆保護者の肯定評価が、教職員や生徒に比べ低いことが課題として挙げられるため、学習用端末を活用した宿題の出し方を検討していく。					教職員	2	100%	5	9	0	0	
				年度末	A						生徒	2	93%	68	34	8	0	
				年度末	A						保護者	2	82%	9	47	12	0	
	基礎・基本の定着	基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定・小テストや単元テスト平均70点以上		年度末	B	◇教職員は、目標値を達成しているが、生徒は6割、保護者も6割弱となっているためB評価とした。授業での様子やテストの結果では教職員は満足できる結果だと考えているが、生徒・保護者は学力の定着が不十分だと感じている。教職員の評価は高いことから、中間期と同じように教師が対策をしたつもり、理解させたつもりという感覚と生徒・保護者との感覚の違いが相変わらず大きいのではないかと考えられる。 ◆さらに授業改善を図り、学級や個々の生徒の実態に応じて、授業展開や発問の仕方、課題の出し方等の根本的な解決が必要である。小テスト、個人用端末等を活用し、学習内容の基礎・基本の徹底的な定着を図る。生徒一人一人の学びを深めるため、学級や個々の生徒の様子に合わせた授業展開や発問、基礎・基本中心の課題を設定していく。					教職員	3	93%	7	6	1	0	
				年度末	B						生徒	3	65%	21	51	35	3	
				年度末	B						保護者	3	57%	6	33	22	7	
	家庭学習の習慣化	生徒に家庭学習の習慣が身に付いている。 自ら進んで家庭学習に取り組んでいる。達成80%以上		年度末	C	◇生徒以外、評価者の肯定評価が60%以下であることからC評価とした。生徒の肯定評価は中間期よりも3%上昇した。3年生は肯定評価は82.1%であったため、入試に向けて意識が高まっているように感じられる。一方で1・2年生は肯定率が低く、特に大きな課題であると考えられる。教職員や保護者の肯定評価が低いのは、宿題への取り組み方がよくなかったり、自宅で学習に取り組む様子が見られなかったりするということが考えられる。 ◆引き続き課題の出し方や頻度を工夫していく。また、3年生の82.1%が肯定というところから目標をもたせて学習につなげさせることも大事だと考えられる。校内でクラス対抗の統一テストを行ったり、単元や定期テストに向けてクラス全体で目標点を決めたりし、勉強に対する意欲付けを行っていく。					教職員	4	36%	0	5	7	2	
				年度末	C						生徒	4	63%	15	54	34	7	
				年度末	C						保護者	4	44%	7	23	29	9	
学校運営協議会委員の所見(年度末) ・学習習慣について、3年生の肯定率が高いので1・2年生に紹介する。 ・基礎・基本の定着について、学校と家庭で意識の違いがあるので、意識の違いを解消する工夫が必要である。 ・平均70点以上の基準は変えてもよいのではないかと。 ・詰め込み世代の保護者が多く、不安に感じるのは当然である。詰め込みも必要ではないか。子供たちの学力は向上させてほしい。 ・短期のスパンでのアンケートや振り返りを行ってみてはどうか。 ・アンケート結果やテストの振り返りについて、生徒の意見を生かせるようにする。 ・ICTの活用を楽しんでいる生徒は多いし、ICTを活用する技能は高めていく必要がある。格差が生じないようにしなければならない。						学校の対応(年度末)		アンケート結果を生徒に返し、生徒の意見や振り返りを改善に役立てていきたい。生徒や保護者の意見に耳を傾け、学校と家庭の連携を図ることで目標の共有と子供の学習習慣確立の実現を目指す。知識の定着を図るためには、書くことを習慣付ける必要がある。ICTを活用する技能の習得も必要であるため、デジタルとアナログをミックスさせた学習や課題を検討する。 分かる授業の充実については、今後も生徒の主体性や対話を重視した授業改善に努めていく。大学入試も変化しているため、教職員も保護者も学力に対する意識を変えなければならない。併せて、統一された目標や課題ではなく、一人一人の生徒に合った目標や課題の設定に取り組んでいく。										